

平成18年度第2回特定疾患対策懇談会議事要旨について

- 平成18年9月11日、第2回特定疾患対策懇談会（座長：国立精神・神経センター総長 金澤一郎）が開催された。
- 第1回（8月9日）の議論で、希少性の要件（患者数が概ね5万人）を超えている疾患のうち潰瘍性大腸炎、パーキンソン病の2疾患について特定疾患治療研究事業の対象者の範囲が希少性の要件に該当する方向で検討するとされたことを踏まえ、両疾患の代表的な患者団体からヒアリングを実施した。
- ヒアリングの対象となったのは下記の2団体。
 - ・ 潰瘍性大腸炎：IBDネットワーク
 - ・ パーキンソン病：全国パーキンソン病友の会
- 両団体から、
 - ① 難治性疾患克服研究事業の今後について
 - ② 特定疾患治療研究事業の対象範囲の見直しについて意見を聴取し、意見交換が行われた。